

# 文科省に聞く!

## 社会が注目しているのは 入試と人材育成目標の一貫性

「大学入試のあり方に関する検討会議」で提言された3原則を、社会変化の中でいかに適用すべきか。この課題意識が、中央教育審議会、教育未来創造会議など、国が行う高等教育に関する議論のベースにあります。例えば「文理横断による総合知」というテーマは、学際化が進む大学の教育・研究をいかに入試に反映するかという点で、3原則の①と③が関わります。「理工系女子」が注目されるのは、多様性確保にも関わる3原則の②の視点です【P.6 図表1】。

中教審では特に、DPとAPの一貫性、整合性が重視されています。卒業時の人材像を描いたうえで、そのスタートラインに立つ人材かどうか判定するものが入試であり、課す科目もその視点から設定すべきでしょう。APや入試のあり方に関する中教審の議論を整理した、教学マネジメント指針の「追補」を2022年度内に策定します【図表7】。

入試は入試、教育は教育、と分断されている状況では、そもそも求める学生を獲得できているのかわかりません。入試は定員充足のためだけにあるのではなく、また、入試を変えるだけで学生が集まる時代でもありません。大学教育全体の設計の中で入試を捉え、入り口から出口までが一体の改革が必要です。

APとDPの関係性が薄い大学があるのは、高等教育において先に制度化されたのがAPだったため、後からつくったDPとつながらなくなっているからかもしれません。ただ、高校で培われた能力のうち何を重視し、入学後はどんな人材に育てようとしているのかという大学のAP、DPに高校教員や受験生が着目している現在、両ポリシーが不整合していることは好ましいと言えないでしょう。

入試戦略が教育の全体像に関わるものであるなら、入試担当だけで検討できるものではないはずです。学長や副学長がリーダーシップを取り、教学マネジメントの一環として、入試と教育を一体化させる必要があります。教学マネジメント、教育の内部質保証は、自学の教育目的が果たされていることを確認する営みです。したがって、入試は学生にとって大学教育の出発点であり、教学マネジメントの観点から捉えても重要なタイミングです。初手で間違えると、ゴールにたどり着けません。IR機能を発揮しての検証も必要です。

## 魅力ある存在になれば学生は集まる 正のスパイラルを描くための正念場

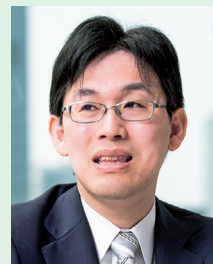
「大学入試が変われば高校は変わる」というのは、

# これからの大学入試のあり方とは？ 「教学マネジメント」と「大学入試」の関係性、意識を

文部科学省  
高等教育局 大学教育・入試課  
大学入試室長

## 平野 博紀

ひらのひろき ●早稲田大学政治経済学部卒業、政策研究大学院大学修士課程修了。2002年文部科学省入省。国立大学法人支援課課長補佐、競技スポーツ課課長補佐、大学振興課大学改革推進室長等を経て、2022年より現職。



言うほど簡単なことではないでしょう。新たな取り組みに手を出すより、現行入試のハードルを下げたほうが目先の受験生は集まると考える方もいるかもしれませんが、しかし、自学が育てたい人を受け入れる努力、たとえ受け入れる人を選ぶ入試であったとしても、それを通じて「本学の教育はここに強みがある。だから、こういう力を磨いてきた人にこそ来てほしい」と伝える取り組みを、妥協せず続けてほしいと思います。特に総合型選抜は、大学から高校にそのメッセージを送り、相互理解や生徒とのマッチングを図りやすい入試方式です。

18歳人口の減少が続く中で、今が大学の将来を左右する正念場ではないでしょうか。中長期的に定員を充足させるためには社会から評価される必要があり、社会が大学を評価する観点において、教育より重んじられるものはそうないはずですが。

文科省では、他大学の模範となる先導的な入試の好事例集を作成しています(次ページ参照)。印象に残ったのは、自学に合う人材を採れる可能性を高めつつも、かかる時間やお金といったコストを下げるための数々の工夫です。その入試方式を安定的、継続的に行えなければ、高校や社会の信頼は得られないと考えた結果かもしれません。

高校に対しては、入試を通じた発信のみならず、直接的な交流も不可欠です。大学進学率が2割だった頃ならいざ知らず、6割近い今、高校現場のことをよく知らなければ、学生募集のマーケティングもできません。文科省としても対話を促していきますが、ぜひ、各大学が高校と日常的に交流する草の根ネットワークを築いてほしいと思います。

## 【図表7】「教学マネジメント指針」に追補される項目

### 追補「入学者受け入れの方針」に基づく大学入学者選抜の実施

- ▶ 入学段階で身に付けていることが求められる資質・能力等や、評価・判定の方法・基準について、「入学者受け入れの方針」に具体的に示す
- ▶ 入学者選抜が求める学生を適切に見いだすものとなっていたか、点検・評価を実施し、その結果を踏まえてAP等の見直しを実施

\*中教審大学分科会(第171回)資料より